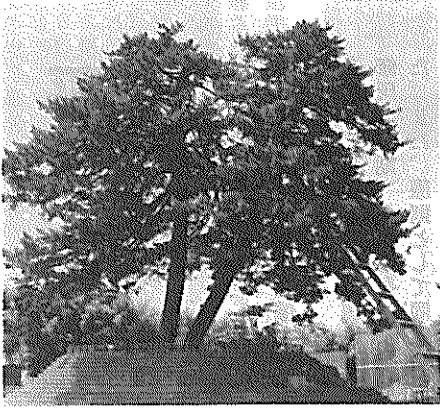


# 双松会会報

第11号(「双松」通巻16号・「松高北高同窓会報」通巻第16号)

発行 松江市奥谷町164  
島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL ②4888-②0655  
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ③3000



## ご挨拶



この双松会報を  
読まれる卒業生の  
中には、まだ多数  
の明治生まれ、大  
正生まれの方が居  
られると思う。こ  
うした会報は、歳をとる程興味味が深く  
なるが、私が遠隔地に居住される古い  
卒業生諸氏に報告したいことは、あの  
赤山と城山の間に横たわるとお濠の緑  
が、ますます濃くなり、昔とあまり変  
らぬ風景だということである。市当局  
もおそらく松喰虫の防除に力を入れて  
いるであろうし、先般松江市長に当選  
された六十三期卒業の石倉市長も、松

## 文武両道



双松会会員の皆  
様には益々ご健勝  
でご活躍のことと  
お慶び申し上げます。  
周囲を濃淡さま  
ざまな美しい緑に囲まれた赤山の台地  
は、潑刺とした若者の熱気に包まれ活  
気に溢れております。千三百有余名の  
生徒たちは、創立百十五年という全国  
屈指の長い歴史と輝かしい伝統に誇り  
を持ち、自らの手で新しい伝統を創造  
すべく、校訓の「質実剛健」の精神を  
根底に据えて「文武両道」を目指し、  
勉学に部活動に生徒会活動にと、はっ  
きりとした目的意識を持って日々真摯  
な態度で意欲的に取り組んでいます。  
今春の大学入試では、受験生の増加  
とか、初めての大学入試センター試験  
の実施といった制度の改革の中で、そ  
れぞれの生徒が、毎日の一時間一時間  
の授業を大切に、着実に積み上げた力  
を十二分に発揮し、立派な成績を挙げ、  
将来に大きな夢を抱き、希望に胸をふ  
くらませて赤山を巣立っていきました。

また、六月に県内各地で開催された  
高校総合体育大会では、それぞれの部  
が平素の練習の成果をいかに発揮

## 会長 柴田 午郎

江を日本一の水の都にするのだと頑張  
って居られるから、遠からず濠の水も  
もつときれいになるだろうと期待され  
る。  
ただ残念なことは、沢山遊んでいた  
カイツブリの姿の見えないことである。  
外国種の大きな白鳥よりも、あの可愛  
らしいカイツブリの方が、あのお濠に  
はふさわしいような気がする。  
のん気な話はさておいて、真先きに  
報告せねばならぬことは、母校の大学  
進学状況である。入試制度の改正によ  
って、殆どの高校は国立大学への進学  
者数が減少したにも拘らず、北高校は  
三百名を上まわる、かつてない程の人

## 校長 松本 幹彦

して得点を重ね、七年振り七回目の男  
女総合優勝という偉業をなし遂げてく  
れました。まさに北高生の総力を結集  
した優勝といえましょう。全国への出  
場権を得た選手諸君の檜舞台での活躍  
を楽しみにしているところです。  
放送部もNHK杯全国高校放送コン  
テスト県大会で総合優勝してJOTK  
杯をいただき、全国大会に臨みます。  
赤山台地には松が一番よく似合うと  
言われます。二本松、お手植えの松を  
はじめ台地を取り巻く多くの松を、マ  
ツクイ虫の被害から守るために、ご提  
出いただいた「赤山の緑を守る基金」  
を有効に活用させていただき、また、  
周辺の住民の皆様のご理解も得て、時  
期を失しないように消毒を続けており  
ます。

黒田町の第二グラウンドは、堀川の水  
位とのかかわりで水はけの悪さは解消  
できませんが、着々と整備を進めてい  
ただいており、野球部、陸上競技部を  
中心に練習に励んでいます。  
また、今春は、第二グラウンドに隣接  
した消防学校の跡地に、硬式用のテニ  
スコート三面と男女の部室を新設して  
いただきました。これまで堀川沿いの  
低湿の地であったために使用できない

数を数えることが出来  
その原因が何処にあるかは、素人の  
私にはよく分らぬが、生徒諸君の努力  
はもろろん、先生方の指導についての  
研究、努力が実を結んだのであろう。  
何としてもありがたひ話である。  
では勉強ばかりでなくスポーツの方  
は？と問われそうなるが、六月  
十二日の新聞を見ると、「第二十八回島  
根県高校総合体育大会」で、松江北高  
七度目の総合優勝という記事が出てい  
る。これも私には詳しいことは分らな  
いが、陸上の競技、水上の競技はもち  
ろん、サッカー、バスケ等々、ず  
い分沢山の種目がある筈である。記事  
の中には空手という文字も見える。し  
たいへんだと思うが、この多種目の競  
技に総合優勝出来たということは、こ  
れまた生徒諸君の努力は言わずもがな、

指導せられる先生方にも大きな讃辞を  
呈上し、改めてよろこびと共に深甚  
のお礼を申し上げます。  
最後に個人的なことを申し上げて恐  
縮だが、この頃私の伴が北堀橋と知事  
官舎の間あたりで、お濠に近い所に  
住んでいる。私も時々滞在するが、春  
浅い頃から鶯が実によく鳴く。平素私  
の住む能義郡の山に近い住居よりも、頻  
繁に鳴いてくれる。  
また驚くことは、野生の狸が出没す  
る。住んでいる人が天プラの残りを投  
げ与えたりするからだとは思いますが、そ  
れにしても、鶯とい狸といさすが  
は城山、赤山だと思ふ。お濠の景色  
といい、野生の動物といい、赤山へ帰  
ってよかつたと思ふ。  
古い立派な歴史を持ち、且つ内容外  
観共に優れた県立高校として、いよいよ  
松江北高等学校の発展を祈る。

## 双松会総会の開催

— 百十五周年記念全国大会 —  
日時 平成三年十一月二日(土)  
場所 ホテル 一畑

六月三十日の役員会において、右記の日程で総会を  
開催することが決まりました。今後五年毎に開催の予  
定です。なお、詳細は来年度の会報でお知らせします。

## 事務局より

事務局(校内幹事)の転出入  
平成二年四月の人事異動

荒木 晶子(国)	高11期	松江清心養護学校へ
仲佐 和幸(数)	高21期	安来高へ
石川まゆみ(英)	高30期	松江工高へ
井口 環(国)	高31期	邑智高へ
福岡 康子(体)	高35期	益田高へ
稲田 昌市(理)	高4期	情報科学高から
山田 和彦(理)	高22期	安来高から
後藤 太(理)	高31期	出雲高定時制から
万代 信子(国)	高37期	

## 松 籟 (しょうらい)

このコラム欄は今まで「  
くい虫」という名前がつい  
いた。昨年十月、ある先輩  
ら、双松の一本が松くい虫  
のため枯死し一昨年の二月伐  
されたが、名前を変えられ  
はとのご提言をうけた。こ  
「松くい虫」の名前は、数年前、会  
生が新しいコラム欄をつくるにあた  
って「ワサビ」のきいた内容にしよう  
思いつけられたこと。双松が  
くい虫の被害を受けるとは思  
ないことだった。ご提言に従って名  
をかえることにした。

松籟(しょうらい) 今、北高の  
赤山は沢山の松、緑の木々に囲ま  
れて、勉強するのに非常にいい環境で  
ある。この赤山台地に風が通り過ぎて  
くと、松の梢に風が吹きぬけ、耳を  
ませると、松葉のすれ合う音、松か  
が揺れる音が聞こえてくる。又近く  
は、茶室、明々庵がある。そこでは  
が立てられ、茶がまの中の湯がたぎ  
コトコト音をたてている。この松風  
松風の音、茶がたぎる音を松籟とい  
うのである。旧制松江中学校の校舎を  
計された校長岡虎次郎氏はお手植の  
の所の玄関から北へ一直線に廊下を  
くり全校舎を貫くように考えられた  
この廊下を松の風が吹き通って行く  
だと喜んでおられたようだ。昔も今  
さわやかな松風が、校舎を、校舎周  
を吹きぬけて行く。このコラムも松  
のようなさわやかなものになればと  
い名前をつけた。  
学校周辺の沢山の松、常緑樹は空  
を浄化してくれるが、いつまでも美  
い緑を保ってくれるように、毎年、  
毒し、施肥を行っている。又、入口  
周りにも平戸つつじを植え、環境を  
備した。  
さて、在校生も松江中学の第十八  
校長、西村房太郎氏が校訓とされた「  
実剛健」の精神を根底にすえて、勉  
と部活動にひたむきに取組んでい  
大学入試も年々、難化してき、今春  
高校の卒業生数も増加し、かなり苦  
すると予想されたが、例年にもまじ  
好成绩をあげてくれた。部活動でも  
県、中国、全国大会でそれぞれ立派  
成績をあげた。今年の六月、行われ  
県高校総合体育大会では七年ぶり  
度目の男女総合優勝を果してくれた  
文武両道の輝かしい伝統を守り続け  
ている。

平成2年度 第一回役員会開催の運び

本年度第一回役員会は、約八十名の出席者を得て去る六月三十日に一文字屋ホテルで開催された。

議題

- 一、会務報告
一、平成元年度会計決算報告、並びに監査報告
一、役員補充
一、平成2年度会計予算審議
一、その他

報告

- 一、二本松記念品について
一、同窓会名簿について

平成元年度 会務報告

平成元年 6月22日 役員会

会務報告・昭和63年度会計決算・二本松関係会計決算・二本松記念品会計決算・名簿発刊計画審議・平成元年度会計予算審議・各期代表80名出席

11月17日 近畿双松会

(大阪弥生会館)

11月18日 学校長・平木・庄司・88名出席

11月18日 東京双松会(日本俱樂部)

11月23日 学校長・庄司・田中久・80名出席

11月23日 東部双松会

(広瀬町富田山荘)

学校長・吉野・庄司・北尾・40名出席

平成2年 2月4日 米子双松会(米子ホテル)

学校長・庄司・田中久・安田・40名出席

3月8日 双松会入会式(卒業生434名)

平成元年度双松会会計決算書

Table with 2 columns: 収入総額 (4,430,292円), 支出総額 (3,302,151円), 残 (1,128,241円)

平成2年度双松会会計予算書

Main budget table with columns: 費目, 予算額, 前予算額, 増減(△), 説明. Includes categories like 会費, 雑費, 印刷費, etc.

Main budget table with columns: 費目, 予算額, 決算額, 増減(△), 説明. Includes categories like 会費, 雑費, 印刷費, etc.

平成2年度 通信制同窓会役員会

事務所 坂本育穂
日時 7月1日(日)午後2時
場所 松江市内「まがたま会館」

出席者 石倉教頭、長谷川、梶村、坂本等の4名。
日程 藤原会長あいさつ、石倉教頭あいさつ及び学校現況報告。

Table for 平成元年度決算 with columns: 費目, 小分類, 予算額, 決算額, 残. Includes sub-totals for 収入 and 支出.

Table for 平成2年度予算 with columns: 費目, 小分類, 予算額, 残. Includes sub-totals for 収入 and 支出.

通信制同窓会役員名簿

Table listing members of the alumni association with columns: 役職 (会長, 副会長, 理事, 監事), 氏名, 卒年.

審議(1)平成元年度決算報告並びに監査報告(小笹監事)
(2)役員改選。藤原会長、徳田、野津副会長再選。別表の通り理事36名、監事2名を会長が委嘱。任期は平成5年3月31日まで。
(3)平成2年度予算、同承認。
(4)その他、会則第10条により松本校長、石倉教頭を顧問に推薦。

名簿「双松」発刊間近か
5年毎に改訂しております名簿「双松」は、来る九月初旬発刊に向けて、ただ今、最終的な作業に入っております。各期の役員の方を中心に、格別のご協力をいただき、今回は六千数百部の予約を既に頂いており、大変喜んでおります。9月初旬から順次、お届けする予定にしておりますので、今しばらくお待ち下さい。
まだ予約をなされていない方で、購入を希望されます方は事務局あてお知らせ下さい。なお、限定販売とさせていただきますので、先着順に締切らせていただくことありますので御了承いただきたいと思います。

右の通り簡単に報告したが、些か補足すると、役員は62、63、元年度の卒業生を含み、7名が新任である。
予算のうち、全国定通体育大会補助として今年も5万円が決定。徳田氏より、通信制50周年記念誌(平成8年頃)を発行すべしとの示唆があり、会長は、その為に寄付等を積立金としておくと回答。
そこで今年も寄付のお願いです。
そこで今年も寄付のお願いです。
送付先 松江北高通信制同窓会 事務局
一口 二、〇〇〇円

「覇気—曠野に立て」
今年の生徒たちは、自分たちの身につけるべきものとして野性的な力をあげました。かなわぬまでも曠野に身をおくという願いを失うまいとするよです。
学園祭は九月八・九・十日。初め二日は文化祭で、十日は初めて日曜はすれての体育祭です。例年、この育祭は多くの校外の方々においでいただき盛り上げていただいていたので、今年はどうかと生徒たちは案じています。
昨年から装いを新たにした一年生朝日式討論会は一層迫熱したものであるでしょう。(第一日)
二年生のルーム出し物は例年通りがとび出すか解りませんが、和恵をばつたものを二期待下さい。
今年もまた炎天の赤山台地をどよとして、老松のもの若松とともに、四〇〇の若さがかげぬけるでしょう。どうか、ちよつとのぞいてみて下さい。



# 平成2年度、県高校総合体育大会 男女総合7年ぶり、7度目の優勝

第28回島根県高等学校総合体育大会は、漕艇、陸上競技など16種目が六月一日から、バレーボール、バトミントンなど11種目が六月七日から、県下各地の会場で開催されました。三月の男子バレーボール部及び漕艇部の全国選抜大会の出場等、活気に満ちた明るい雰囲気の中でむかえた県総合体育大会は、六月一日から開催され北高からは五百二十名の選手団を派遣しました。

出場選手は、優勝種目こそ少なかつたものの、各部門とも実力を十分に出しきり、男女総合優勝の栄冠を手にしました。このうち、陸上競技部、硬式テニス部、漕艇部、水泳部の三十二名の選手は八月一日から宮城県を中心に開催されたインターハイに出場し、母校の栄誉と青春のよき思い出のため一杯戦ってくれました。

以下主な成績をあげておきます。  
男女総合 優勝(個人は一位のみ)  
男子総合 四位  
女子総合 二位

一九九〇年度国立公立大入試は、昨年度までの共通一次試験に代って、大学入試センター試験が、一部の私立大学も参加して実施された。大筋では共通一次と変わりはないものの、数学のIとIIの分離、理系の理科2科目受験、国語、英語の時間短縮等、理由がはっきり分らない変更点がいくつあった。さらに分離・分割方式が前年度に比して一層進み、全大学、学部ほぼ半数を占めるに至った。特に旧帝大をはじめ難関大学の大部分が分離・分割となった。この制度は一つの大学学部の定員を前期と後期(ほとんどの大学で、前期が八九割)に分け、後期試験は前期の合格発表後に行われ、前期合格者は二三日の間に手続きをしないと無効になるというものである。したがって、願書は二校(または一校の前後期)に出すもの、実質は共通一次導入から六一年までの一校受験に近い状態となった。

今春の進路状況

三〇九名は中国五県の中で宇部の三〇五名を抑えて第一位であり、昭和六二年を大きく引き離し、また、昭和六二年の三二二名(この年は全大学A・B日程、完全複数受験)に迫るものであった。

私立大学については、全国的に国立離れによる受験者増、コンピュータ導入による歩止まりの適正な把握による合格数減のダブルパンチで軒並み難化し、今やすべり止めの私大はなくなったといわれるまでになった。その中で本校生の合格者数は昨年を大幅に上回ることができた。さらに、高専、各種学校、就職に約三〇名進み、大多数の者が自分の希望する道に進むことができたが、なお合格浪人も含めて約百名の者が来春再挑戦することになる。

一九九一年度入試は、分離・分割方式が一層増えるが、制度そのものは今年と変更なく、この制度はしばらくは続くものと思われる。就職については社会全体の高学歴化、コンピュータ導入による人員の削減等により、高卒の募集、特に事務系が少なくなってきた。

このような状況の中で、本校生はよく頑張り、現役、浪人合せて国立三〇九名、公立一〇名が合格した。国立の

平成元年度進学状況学校種別 (平成2年4月集計)

	62年3月			63年3月			1年3月			2年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	236	76	312	206	71	277	225	55	280	237	72	309
公立大学	6	4	10	6	5	11	11	2	13	4	6	10
私立大学	129	109	238	94	83	177	115	133	248	164	134	298
短期大学	74	7	81	86	4	90	128	4	132	107	10	117
その他	34	3	37	34	7	41	30	2	32	22	3	25
合計	478	200	678	427	169	596	509	196	705	534	225	759
クラス数	8(国立大複数受験)			8(国立大複数受験)			9(国立大複数受験)			10(国立大複数受験)		

ており、従来のような地元、事務という志望は非常にむずかしくなってきた。先輩諸氏の絶大なご支援、ご協力をお願いする次第です。

赤山柔道部の黄金時代

松中54期 井上 繁 吉

私は、昭和九年松江中学の卒業生です。在学中は、松中柔道部、マネージャー兼選手として鳥取高等農林学校、松江高等学校及び島根県柔道大会に優勝した赤山柔道部の黄金時代の一員です。紅丘を読んで、私の赤山柔道部時代の思い出の一端を綴らせていただきます。

双松会と母校に熱き思いを

松中59期 池添 清 見

人たれしも、自分の母校に誇りと誇らない愛着の思いを抱くではありません。私もその例外ではなく、それどころか、人一倍強いとさえ思っています。その母校卒業生で組織されている双松会への思いも、また然りであり、一年一回発行の「双松会報」は隔か、隔まで、欄外発行日付まで読むといふ熱心さであります。読後感はいろいろありますが、各号一貫して編集委員のご苦労の程が思われてなりません。会員各位もご承知のように、質実剛健・文武両道を旨とした松江中学の伝統を立派に受けついで松江北高の教務は厳しく、先生方の勤務はまさに月日火水木金の様相であります。曾々教師に在り、今も教育にかかわりの私、その辺の事情を知っているつもりであります。

飲んで全員、下痢をして負けましたがそれでも、佐藤君は大勝同志でした。京都はやはり三回戦、四国北子中学に負けました。

今でもいちはん残念だったのは、四年前の時、大田中学における島根県大会優勝戦で、島根商業に負け、とで、後四人は四年生で、三成、松本長尾、佐藤君でした。全員、引き分けで代表を上田君が出て負けました。昔話しを書いて申し訳ありませんが、竹下先生の柔道部時代の事が書てありましたので、私も拙い筆をたしだいであります。竹下先生に對する一番の思い出は、第一回選挙、田長右衛門、佐野野、竹下先生、三人と一緒に、島根新聞の前で演説された事です。

柔道の先輩、後輩が三人よって演説された事を、今でも覚えております。

秀筆を呵する次第であります。さて、会員の親睦と母校の発展を目的として、何処の学校にも卒業生会組織があることはご承知のとおりであり、双松会はその規模に於て県内随一であります。(学校創立の歴史、昔からの大規模ですから)

各期だより

松中五十三期

田辺 壘

島根本部総会を平成二年五月二十七日(即午後二時)より臨水亭(松江市末次本町十三)にて開催、出席者一十一名、総会パンフレットの次第により物故者への黙祷、原田代表幹事の挨拶に始り、平成元年度会計決算及び監査報告等型通り進行す。本年は五十三期生回顧誌刊行の特別提案があり、明年平均年齢(大正四年生)七十七歳となるので喜寿記念特別号とすることとなり、編集委員会も発足させ

ても、学校の教育そのものに口出しや、介入をする、ということではありせん、どんな支援活動か。一口で申しますと、教育活動資金援助ということであります。私の記憶では、双松会として母校への資金援助は、百周年記念時と一昨年(二本松の時)だけだったように思いますが、大事業の時だけは勿論のことですが、もつと適時適切な資金援助を考えたら如何でしょうか。

東京松中六十八期会

錦織 周一

今年何歳になったとか、赤山を出て何年になるとかは全く話題にならない。今年、賀寿年祝に当たることなど口にする者もない。あたくもお互いに禁句になつてゐるようである。学びの道や生業を勤め励んだ人生の軌跡は人それぞれ。会社社長もいればタクシ一の運ちゃんまでいる。こんな連中が二年に一度顔を合わせ全員がスピーチをやり友情を確認しあう、これが東京六八期会である。十一月二十九日夕、今回は南青山の東京銀行に参集した。われらがフェロー、あの時代を反映

間見せてくれました。このことだけでも特別賞(仮称)等を与える等、その気になれば、方法は幾らでもあるでしょう。(努力部・優勝部・好記録部賞等々) 忘れたい頃に総合優勝するのではなく、絶えず優勝線上に在つてこそ、真の文武両道の伝統・名門校といえるでしょう。

松高十期会

平木 栄

卒業三十周年記念同窓会を終えて昭和三十一年入学、同三十四年卒業の我々松高十期生は、昨年(平成元年)八月十三日午後四時からホテル一畑で卒業三十周年を記念して大同窓会を開きました。出席者は、男七十五人女七十六人の同級生一五一人と恩師の先生十四人の合計一六五人、中でも、松江を離れて遠隔地に在任の人の参加が特に多く、幹事としてすばらしい盛り上りに感激入でしてました。まず、ホテル前庭での全員の記念撮影のあと、「山脈うらかむて」の校歌のメロディの流れる会場に入り、遠足や学園祭、クラス写真、川津校舎等の懐かしいスナップをスライド映写して気分的には全く三十年前に戻つたところよいよ開会です。

急きよ、「山小屋」をお願いする等、幹事大あわての場面もありました。前日の八月十二日には物部真三君(丸R)のお世話で、「三十周年記念ゴルフコンペ」を開き、ムードを盛り上げました。また、川津校舎の航空写真入りした。また、川津校舎の航空写真入りした。また、川津校舎の航空写真入りした。

告!

松江高校第十二期(昭和二十六年)卒業三十周年記念同窓会開催決定

十二期同窓生の皆様、如何お過ごしでしょうか。お伺いたします。早いもので、私達は昭和二十六年三月卒業以来、いよいよ来年は節目の三十周年を迎えることになりました。気持ちだけは、まだ二十歳代と思つていますが、いかんせん、頭にはちらちら白いものが混り、記憶力、体力とも本当に弱くなつてきました。このあたりであの若き日を思い出し、新しい活力にしたいと思ひ、想ひ出深い松江高校卒業三十周年を記念して、同窓会を盛大に催し、旧交を温めたいと思ひます。先日、松江在住の同窓生約二十名が集まり、全国で御活躍中の同窓生の皆様に一人でも多く帰郷してもらつて、話し合いました。また、恩師の先生方にも多数御出席をお願いする予定です。詳細は、来年六月頃迄には同窓生各位に郵送させて頂きますが、御要望や連絡事項等ありましたら、御一報下さいます。なお、世話人の会で決定した事は左記のとおりです。

松江高校卒業三十周年第十二期同窓会 期日 平成三年八月十二日(月) 会場 玉造温泉 玉井別館

編集後記

双松会会報第十一号をここにをお届けします。フロントページのコラムの「称、「松くい虫」を「松籟」に改める」とにしました。「松くい虫」は、もユーモアでなくなつたのです。今春から夏にかけての北高生の活躍には目覚ましいものがあります。複雑する。一方の入試制度の中で、国公立一九名、私立二九八名というかつてい程の成績を取られました。大学での業に専心し、人格を形成して欲しいのです。また、スポーツの面では、高校総合体育大会、男女総合優勝を遂げました。七年ぶりの快挙です。放課後の練習の充実、教師と生徒間一体感が実つた結果です。部活動で、その他に、放送部のJOIT杯があります。これは昭和五十七年以後のことです。このように、北高は文武両道目標に近づいています。 去年の秋には、西ドイツとイギリスの教師十数名が北高を訪問しました。さらに、今年の五月にはアメリカ合衆国の社会科教師による訪問があり、業風景を視察しました。整然とした授業が行なわれているのに感動してました。いろいろな形で人事交流がされる時代に入った気がします。 原稿を募集しています。想い出、一況、何でも結構です。